

第2回大阪府市都市魅力戦略会議

1 開催日時

平成24年3月26日(月) 10:00～11:30

2 場所

大阪市役所本庁舎 7階 第6委員会室

3 出席者

橋爪特別顧問、太下特別参与、嘉名特別参与、橋本特別参与、福田大阪府府民文化部長、野々村大阪
市ゆとりとみどり振興局長

4 議事概要

○都市魅力戦略会議の取り組み状況について

(橋爪特別顧問)

- ・ 「世界的な創造都市に向けて グレートリセット (中間報告)」を説明
- ・ (4ページの)イメージ図は、私の私案。
- ・ まず、府市共通の都市魅力戦略を持つべき。府の都市魅力創造戦略が23年度で設定年度が切れるので、それを府市統一したものにビルドアップし、その中に、「3つの組織」「5エリア」「シンボルプロジェクト」を取り入れながら作りたい。

(嘉名特別参与)

- ・ **BID**とはもともとアメリカでできた制度であり、現在全米で**1000**地区あると言われている。最も盛んな都市はニューヨークで、タイムズスクエアやブライアントパークなど**64**地区で**BID**を導入している。ブライアントパークは大阪城で、タイムズスクエアは水と光のオーソリティなどの検討にあたり参考となる。**BID**については、従前から議論はされてきたが、制度や仕組みの問題で国でも進展していない。是非財源等も含めて、条例や特区など一体的に具体的な制度化へ向けて議論をしてほしい。
- ・ **24**年度にある程度成果が出るよう、スピード感を持って取り組んでほしい。資料1の④ページに載っているパースがあるが、これは中之島ガーデンブリッジを活用し橋上に賑わい空間を作りたいという構想。今すぐ実現するのは難しいと思うが、空間活用や社会実験はできると思うので、できれば**24**年度に形として見えるように取組んでほしい。

(橋爪特別顧問)

- ・ **BID**については日本では法制化されていないが、特区での規制緩和やと条例を組み合わせればできる可能性があるので検討したい。ただ誤解のないようにしてほしいが、難波をタイムズスクエアに、大阪城をブライアントパークにするのではなく、あくまで仕組みの話である。大阪独特のものを作ることが目的であり、ポンテベッキオにするのではない。方法論の話なので、ミスリードしないようお願いしたい。

(太下特別参与)

- ・ 3つの組織の一つのーツカウンスルについては、どこまでをーツカウンスルとすべきかを議論しなければならない。資料1の3ページの図面で評議会となっているのは一般企業で言えば取締役会にあたる部分。取締役会を含めて企業体であり、それと同様に評議会

も含めてアーツカウンシルとしたほうがよい。

- ・ アーツカウンシルでは、行政のように単年度単位ではなく、中長期の戦略を練ることができ、また行政は失敗が許されないが、ある程度実験的な試みができるというメリットがあるので、助成審査だけではなく、パイロットプログラムまで実施してはどうか。
- ・ 大阪観光局や水と光オーソリティについても行政との関係について整理が必要。
- ・ 5つのエリアマネジメントについては、集客を産業育成につなげる発想が必要。府内への経済波及効果はもちろんだが、そのノウハウや技術を大阪の水道技術のように、アジア諸都市に売り込むことができると思う。

(橋本特別参与)

- ・ 伝統芸能である文楽についてもグレートリセットが必要と考えており、文楽や大阪フィルハーモニー等についてもアーツカウンシルの守備範囲として検討してはどうか。
- ・ シンボルプロジェクトにおいては世界的名物となることとあるが、文楽や大阪フィルなどはまさにそのようなものだと思う。
- ・ 大阪にあるいろいろなミュージアムを大きな機構として考える必要がある。これもアーツカウンシルで議論すべき一つだと思う。

(太下特別参与)

- ・ 文化資源の保存と活用を図るため、番組アーカイブ等の保存機関と大学、文化産業の横断的な連携を図るM A L U I 連携という考えがある。Museum, Archive, Library, University, Industry。美術館単体で考えるのではなく、各施設の横断的な連携により新しいミュージアムの企画が必要。
- ・ 近代美術館構想は20年前から議論されてきたが、一度、グレート・リセットして考えてはどうか。建物の規模を競っても仕方がなく、アジアの他都市が、大阪の美術館の分館を作りたいと思わせるようなミュージアムとなるよう検討してはどうか。

(橋爪特別顧問)

- ・ 今の議論で抜け落ちているのは産業政策との関係であり、次の戦略で検討が必要。重点的に取り組むエリアと産業政策をどのように重ねていくのか。2ページに、地域との関係、文化創造産業育成を入れてはどうか。

(橋本特別参与)

- ・ 2ページの記載では、府市事業の統合、廃止のみ強調されているように見える。統合して縮小するのではなく、より強くなるような書き方が必要。

(橋爪特別顧問)

- ・ 4月中旬に統合本部への報告に向けて資料を整理してほしい。2ページの事業仕分けのところは、廃止や縮小だけでなく、強化というイメージが出るようにしてほしい。

(嘉名特別参与)

- ・ 8つのWGの議論をどうまとめるか。全体としてつなぐキーワードが必要。世界第一級の都市としてのブランド化が必要。打って出るような一体的なコンセプトが1、2ページに必要では。

(太下特別参与)

- ・ 第1回目の都市魅力戦略会議で提案した大阪に漫画アニメのミュージアムをとということに

も関連するが、国の施設の誘致という発想も必要。国が新規に施設を作るとなったときに大阪に誘致する準備をすべき。

(福田府民文化部長)

- ・ B I Dなど新しい仕組みについて、庁内の企画部門とも議論したい。アーツカウンシルなども含めてスピード感を持って取り組みたい。ただ、行政としては議会での審議ということも意識しておく必要がある。議会の議決を得られなければ前に行かない。アーツカウンシルは、議会の権能の一部がなくなるのではないかという議論も今後予想される。そうした状況についてもご配慮いただきたい。
- ・ 産業政策については、所管部局が異なり、連携ができていないのはそのとおりであり、トータルで打ち出す必要があると考えている。ご意見をお願いしたい。

(野々村ゆとりとみどり振興局長)

- ・ 2月から2カ月弱という非常に短期間で広範囲かつ深い議論をしていただき感謝している。また内容もゆとりとみどり振興局内に留まらない議論となっていることから、関係各局も含めて議論してまいりたい。

○大阪府都市魅力創造戦略について（府新井都市魅力創造局長より説明）

(橋爪特別顧問)

- ① このように、都市魅力の分野を横串でとらえ、ミュージアム都市の実現を掲げたような戦略は、他の都道府県では事例がない。
- ② この戦略の要素はぶれることなく、これに産業との連携を加味して、府市の都市魅力戦略を作成していきたい。
- ③ 大前提としてハコモノではなく既存ものを最大限に活かすということ、いかにして強みを伸ばしていくのか、この考え方も継続したい。

(嘉名特別参与)

- ④ 府市がさらに連携を深めることでできることが多くあるはず。産業政策と基礎自治体としてのまちづくりとが連携できるのは大きい。それらを戦略に取り込めたらよい。また分かりやすい成果目標も設定しやすい。例えばB I Dの導入により、ホテルが立地したとか雇用が何人増えたとか。

(太下特別参与)

- ⑤ 初見だが非常によくできた計画だと思う。あとはこれをベースに産業創造の観点も加えていければよい。

(橋本特別参与)

- ⑥ ミュージアム都市大阪をめざす中で、例えば既にたくさんある画廊やギャラリーをつなぐということも必要。また文楽だけでなく能勢にある人形浄瑠璃なども含めて検討し、重層的な枠組みとしていきたい。

(橋爪特別顧問)

- ⑦ これまで市内のことに関して府は遠慮気味であったが、それを打破して府市で都市魅力向上に向けた戦略を検討したい。
- ⑧ 府及び市それぞれで戦略を作って融合させるのか、府市合同で作ってそれぞれに分けるの

かを検討しなければならない。

(新井都市魅力創造局長)

- ① 府市事業の融合と府域をどのようにしてつなぐのか、今後議論していきたい。
- ② 本日の議論を踏まえて、中間報告案をバージョンアップさせ、4月中旬に統合本部へあげていく。引き続き各WGで検討を進めていく。